

追 悼



眞野行生氏略歴

1943 年 8 月 26 日 愛知県名古屋市で生まれる。
 1968 年 3 月 名古屋大学医学部卒業
 1968 年 4 月 名古屋大学医学部附属病院で実施修練
 1969 年 4 月 名古屋第一赤十字病院内科医員
 1972 年 1 月 名古屋大学第一内科医員
 1972 年 7 月 米国 New York University, Institute of Rehabilitation Medicine, Department of Physical Medicine & Rehabilitation, Resident
 1974 年 7 月 米国 Baylor College of Medicine, Department of Neurology, Assistant Instructor and Resident
 1975 年 7 月 米国 University of Maryland, School of Medicine, Neuromuscular Research Unit, Research Fellow
 1976 年 10 月 名古屋大学第一内科医員
 1978 年 7 月 国立武蔵療養所神経センター(現国立精神・神経センター) 疾病研究第 4 部研究室長, 理学診療科医長
 1981 年 10 月 奈良県立医科大学神経内科学講座助教授, 奈良県立医科大学附属病院中央リハビリテーション部副部長
 1995 年 10 月 北海道大学医学部リハビリテーション医学講座教授
 1996 年 1 月 北海道大学医学部附属病院リハビリテーション部部長
 2000 年 4 月 北海道大学大学院医学研究科リハビリテーション医学教授
 2004 年 11 月 7 日 享年 62 歳で逝去

学会活動等

International Society of Electrophysiology and Kinesiology 理事・学会長 (2000)
 日本電気生理運動学会理事長・学会長 (1998)
 日本リハビリテーション医学会理事・学会長 (2003)
 日本神経治療学会理事・学会長 (2004)
 日本臨床環境医学会理事・学会長 (2002)
 リハビリテーションケア合同研究大会札幌 2002 大会長 (2002)
 北海道リハビリテーション学会理事, バイオメカニズム学会理事, 日本臨床神経生理学学会評議員・磁気刺激法に関する委員会委員長, 日本神経学会評議員, 日本パラプレジア学会評議員, 日本義肢装具学会評議員, 磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会事務局, 日本介助犬アカデミー副会長, 北海道医師会常任理事
 Journal of Electromyography and Kinesiology, Editorial Board
 Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation, Associate Editor
 「総合リハビリテーション」編集同人
受賞
 ANNIE (Artificial Neural Networks in Engineering) 賞
 北海道医師会賞, 北海道知事賞

眞野行生先生を偲ぶ

生 駒 一 憲

(北海道大学大学院医学研究科リハビリテーション医学)

眞野行生先生は2004年11月7日午前9時56分、享年62歳で逝去された。リハビリテーション医学分野の教授としてご活躍の最中、道半ばでのあまりにも突然で早すぎる旅立ちであった。

眞野行生先生は1968年名古屋大学医学部をご卒業後、1972年より4年間にわたって渡米され、ニューヨーク大学、ペイラー医科大学、メリーランド大学でリハビリテーション医学、神経内科学の臨床および研究に関して研鑽を積まれた。帰国後、国立武蔵療養所神経センター（現国立精神・神経センター）を経て、1981年に奈良県立医科大学神経内科学講座助教授に就任され、同附属病院中央リハビリテーション部副部長を併任された。1995年10月、北海道大学医学部リハビリテーション医学講座の教授に就任され、1996年1月、附属病院リハビリテーション部部長を併任され、2000年4月、現職であった北海道大学大学院医学研究科高次診断治療学専攻機能再生医学講座リハビリテーション医学分野教授に就任された。眞野先生はリハビリテーション医学のなかでも、特に機能回復に重要な役割を果たす「脳の可塑性」に注目され、この研究を教室員とともに推進されていた。この研究に重要な役割を果たしているのは経頭蓋磁気刺激装置であるが、眞野先生はこの装置を日本で初めて開発された一人である。眞野先生は「磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会」を立ち上げられ、経頭蓋磁気刺激の普及に努められた。経頭蓋磁気刺激は中枢神経の解析に使われるだけでなく、最近ではこれを治療に用いる研究が盛んであり、リハビリテーション医学の新しい分野として注目される。眞野先生がおられなかったら、今日のような経頭蓋磁気刺激研究の隆盛はなかったと思われる。逝去された後の2004年11月17日に開催された「第15回磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会」のプログラムをみると眞野先生の講演予定が記されている。この講演が叶わず、眞野先生はいかに無念であられたかと心が痛む。

北海道大学病院のリハビリテーション科はゼロからのスタートであったが、2004年10月にはリハビリテーション科外来を拡充するなど、眞野先生はリハビリテーション科の充実、発展に精力的に取り組まれた。外来患者はひと月に3,000名を超え、眞野先生のリーダーシップに対する期待がますます高まっていた矢先であった。

学会活動は幅広く、日本リハビリテーション医学会理事、日本電気生理運動学会理事長など多くの学会の役職を務められた。2000年に国際電気生理運動学会、2002年にリハビリテーションケア合同研究大会、2003年6月に日本リハビリテーション医学会学術集会、2004年6月に日本神経治療学会総会を各々学会長として開催されている。

眞野先生は北海道大学リハビリテーション医学教室の初代教授として、リハビリテーション医学の教育・啓蒙に情熱を傾けられ、教室員一人一人対して熱心に指導されていた。そして、各人の将来を案じておられた。また、眞野先生はご家族を非常に大切にされていたことも有名である。われわれの悲しみだけでなく、ご家族も深い悲しみのなかにおられることは言うまでもない。眞野先生がおられなくなり、その存在がいかに大きかったかを実感する毎日であるが、眞野先生が作られたリハビリテーション医学教室をさらに発展させることが、われわれ教室員がこれからできるせめてもの恩返しであると思う。

謹んで眞野行生先生のご冥福をお祈り申し上げる。